

No.86

尚学塾

平成18年11月1日

藤本 英

27回生卒業30周年記念尚学塾特別講座

11月9日(土)に、27回生の卒業30周年に集い会あり、記念事業のなか
尚学塾特別講座と図書館ゼミを企画いたしました。

《卒業30周年記念事業の内容》

- 1 尚学塾 27回生特別講座 11:10~ (教室)**
深志では、平成14年度の完全週5日制に伴い、今まで登校していた、第1・3・5土曜日を利用して「尚学塾」が開設されました。
発起人代表の穂苅甲子男さんの尚学塾の開設趣意書には、
「尚学塾の志向するところは、真の意味での「自治」の復活にあります。かつて上級生や先輩が下級生をよく教えたり、毎朝上級生の輪講があったような姿を二十一世紀の今に活かし発展させたいと願うものです。」
とありますが、深志で学んだことに感謝すると共に30年前を思い出して、多感な若者たちのために多少なりとも役に立つことが出来ればと考えた次第です。
- 2 図書館ゼミ 13:20~ (図書館)**
図書委員会が主催する全学年対象のセミナーで、今まで各界活躍の卒業生、PTA などが講師となり、様々な内容を取り上げているようです。

尚学塾特別講座は、これまで卒業50周年の記念事業として開講に
いたしておりました。今年も10月15日(土)に、7回生の銚鋸大生 皆様から
10講座と、生徒に語りかけていただきました。

尚学塾の開設以来、生徒の進路意識の高揚を目指して、
外部講師による講座と、どのような方にもお願いたすべく、手探りの状況
でした。平成14年度は4回生の卒業50周年にあたり、4回生の皆様は、

尚学塾の開設と趣旨を見通したおかげで、前年平成13年、11月に
記念講座の申請をされたおかげで、その合致は、天の導きのおかげ
おかげで実現しました。14年度の高校では、同級生の皆様から、土曜
講座の講師を募集し、登録者名簿を作成し、活用すると開
いたおかげで、16年度本校は周年記念事業として、おかげで
思っています。天の導きです。

新刊
今日、卒業30周年の現役バババ(48歳)の皆様には、講座を
開いてくださり、本当に良かったと思います。来年もぜひお願ひは
させていただきます。28回生の皆様、よろしくお願い致します!!
ここでは今日の特別講座の内容を紹介いたします。

| 講師氏名 | 経 歴 | 演題と講演内容 |
|------------|--|--|
| A 金子 至 | 松本歯科大学卒 歯周病専門医 松本歯科大学教授(非常勤) スタディーグループ「綾の会」 代表 日本臨床歯周病学会指導医 日本歯周病学会認定専門医 日本顎咬合学会認定医 アメリカ歯周病学会インターナ ショナルメンバー | 「新時代の歯科医療 組織再生医療とMI(miminal intervention)」 歯科医療は、長い間「削って詰める」あるいは「歯を 抜いて入れ歯を入れる」という対症療法が続いてきまし たが、科学の進歩は歯科医療にも大きく貢献してくれる ようになりました。 例えば、歯を抜かずに顎の骨を再生して咀嚼できるよ うにする、あるいは歯の無くなった顎に親不知などの機 能していない歯を移植する自家歯牙移植や、顎の中に乳 歯、永久歯に続く第三の歯をつくらうとする最先端再生 医療の臨床応用です。しかしその一方で、できるだけ体 への侵襲を少なくするMI医療なども浸透しつつあり、 今日の歯科医療は大きく変化しようとしています。 痛みを取るだけの従来の医療ではなく、患者さんの QOL(quality of life)を高めるために、私が現在取り組 んでいる歯科医療について紹介します。 |
| B 上條 剛 | 東北大学法学部卒 弁護士(昭和60年4月に長野県 弁護士会へ登録、入会) | 「国民の権利と弁護士の仕事」 ① 国民の権利の重要性とその歴史 ② 身近な事例とその解決の方法 ③ 弁護士の仕事の様子 ④ 弁護士の資格の取得とロースクール |
| C 小柴 朋子 | 奈良女子大学卒 文化女子大学大学院修士 博士(被服環境学) 文化女子大学助教授 | 「一生快適におしゃれしたいあなたに ～生活を科学する楽しさ～」 誰も裸では生きられません。服との付き合いは一生続 きます。少しでも快適でかっこよおしゃれのためには、 何を考える必要があるでしょうか?科学の目で自分の 体と服を見直すとは、いろいろなことが発見できます。 生活を科学することは、とてもエキサイティングです。 |
| D 小林 伸一 | 東京理科大学工学部卒 電力会社、電気メーカー、外資 系化粧品会社、ベンチャー企業 の立ち上げ等を経て現在米国マ ンパワーグループのライトマネ ジメントコンサルタントジャパ ン(株)にて企業向け人事関係サ ービスに従事。他に新宿におい て日本紅茶協会認定の紅茶とワ インの店「ディー・カツエ」 の営業に関わる。 | 「実社会におけるキャリア形成のポイント」 高校時代は北安の池田町から大糸線で通学していた 勉強嫌いで成績の悪い普通(?)の生徒でした。大学は機 械関係の専攻でしたが、その後転職によりいろいろな業 種・職種を経験し、現在の企業向け人事及び人材に関係 したコンサルティング会社の仕事にこの10年余関わ ってきております。現在、企業の置かれている環境が大 きく変化していく中、求められる社員のキャリアも変わ らざるを得ません。これから大学・大学院等へ進学をさ れる方々が多いでしょうか、実社会といってもまだまだ 先の事と思われるかも知れません。しかしながら、実 践の時は直ぐにやります。その時の為に、一企業に 在籍することによる成功体験もしくは主観的なもので なく、日ごろ客観的に企業やそこで働く社員の方々を見 ている立場より、在校生の方々に将来のキャリアに関す るアドバイスができれば幸いです。 |

| | | |
|-------------|--|--|
| E 猿田 正明 | 東北大学大学院博士課程前期終了 1982年4月清水建設に入社、現在に至る | 「耐震・免震・制震 ～地震から構造物を守る技術～」 地震国日本では、いかに地震に安全な建物を造るかが大きな課題です。最新の技術を紹介しますと共に、身近で出来る地震対策について考えてみたいと思います。 |
| F 手塚 英明 | 武蔵大学経済学部卒 木曾塗七代目ちきりや万右衛門 長野県学校事故被害者等支援相談員 木曾地区保護司会常任理事 | 「日本の心 ～漆物語～」 漆器は英語で「Japan」と言います。その呼び名からもわかるように、漆器は日本を代表する文化であり、日本の心が凝縮されています。古くは縄文時代からの歴史・塗料としての漆の話・伝統工芸から学ぶ日本人の心と感性・これからの「もの創り」の考え方等、ちょっと馴染みの薄い話ですが、日本文化の一端を知って頂ければと思います。 時間があれば、保護司というボランティアを通して感じる、家庭と心のありようにも触れてみたいと思います。 最後の20分くらいは、漆の工程を体験し、世界に一つしかない、自分の作品を作っていただこうと思います。 |
| G 萩原 俊彦 | 東京大学経済学部卒 旭硝子株式会社入社、資材管理、人事管理、経営企画などに携わる。1993年米国ワシントン大学(シアトル)ビジネススクール修了(MBA)。1997年青山学院大学にて博士号取得(国際経済学)。青山学院大学非常勤講師、ワシントン大学客員研究員を経て、2001年より名古屋経済大学助教授。 | 「経済学と経営学」 深志生の皆さんは99%、大学進学を考えていると思いますが、特に日本史や世界史が好きで将来文科系に進みたいと考えている方や、物理・化学が苦手な文科系にでも行くかと考えている方は、文科系の学部でいったい何を勉強するのかわからなくて学部選択に迷われているのではないかと思います。私も迷いました。そこで私が選択した経済学部や経営学部を中心に、文科系の学部では何が学べるのか、さらにはアメリカのビジネススクールの様子などを経験に基づきお話したいと思います。 |
| H 藤沢 雄一郎 | 東京水産大学卒 4年間で脱サラし以後有機農業と環境問題に取り組む、県議選に出馬、安曇野アイガモ会事務局 | 「21世紀は農業の時代」 アイガモ農法の実験をスライドで説明しながら今後の日本における農業の行方を探る。 |
| I 松森 浩士 | 明治薬科大学卒、薬学修士 外資系製薬企業ファイザーに23年勤務、医薬マーケティング部グループプロダクトマネージャー、臨床開発部長を経て現在、参事、開発薬事統括部長。 米国 Pfizer、La Jolla 研究所出向、Global Regulatory Leader | 「新薬開発とグローバル製薬企業」 今、新薬開発を取りまく環境は大きく変化している。ゲノムを応用した新薬の開発が実現しつつある中、新薬の開発にかかる費用は急増し、新薬を安定して発売していくためにはある程度大きな企業規模が必要となる。この流れの中で海外ではここ10年で製薬企業の合併が相次ぎ、いわゆるグローバル・メガ・ファーマと呼ばれる巨大製薬企業がいくつも誕生している。この講演では新薬開発の流れとその環境の変化、グローバル製薬企業の日本での開発戦略、海外勤務を含む23年の外資系企業で働いた経験から職場での欧米と日本の文化の違いとその対処法を分かりやすく紹介する。新薬の研究・開発、またグローバル企業で働くことに興味のある方に参考になるような話をしたい。 |
| J 三澤 弘道 | 自治医科大学卒 医学博士、整形外科 国保依田産科病院長 信州大学医学部整形外科臨床教授 | 「医師をめざす諸君へ、医療現場から」 医師過剰時代が到来すると言われながら、長野県では慢性的な医師不足が続いている。テレビドラマやマスコミの取り上げている医療の世界は、実際とのギャップを感じさせられる。日進月歩の医療技術、個人情報保護法の実施、患者の権利、混合診療を含む医療界への市場原理の導入など、望まれる医師像も大きく変化してきている。医学という自然科学を習得するだけでなく、医療の現場でのリーダーとしての資質も要求されてきている。医師を志す後輩諸君に少しでも参考になれば幸いです。 |

| | | |
|------------|--|--|
| K 務台 俊介 | 東京大学法学部卒 群馬県財政課長、茨城県総務部長、地方分権推進委員会事務局参事官、消防庁防災課長などを経て総務省自治財政局調整課長 | 「国と地方の関係の変遷 ～地方分権改革の歴史と展望」 講演者は、国と地方自治団体の間を行き来しながら仕事をしてきた。その間に培った問題意識に基づき、霞ヶ関にあって地方分権改革に携わってきた。現在、財政構造改革が進められているが、地方分権推進の立場からどのような改革を進めていくべきなのか、進められるのか。霞ヶ関で三位一体改革をはじめとして累次の地方分権改革に携わってきた立場から、地方分権改革の行方を展望する。 |
| L 百瀬 好道 | 東京大学文学部卒 NHK入局、バリ記者養成センター留学、東ベルリンブリュッセル特派員、経済部記者を経て現在解説委員 | 「世界を読み解き記録する ～国際報道体験記～」 事故・災害から選挙、戦争、経済交渉まで、自分の知力・体力・経験だけを頼りに国際的なニュースを追いかける。ジャーナリストとは「日々の記録者」を意味する。次第に複雑化し錯綜を極める世界の動きを、どう解きほぐして表現し、歴史に刻み付けて行くのか。 ヨーロッパを中心にした具体的な取材体験を踏まえて、職業としてのジャーナリズムの一断面を紹介する。(余り堅苦しい話にはなりませんからご安心を) |

5 図書館ゼミ 13:20～ <図書館>

| 講師氏名 | 経歴 | 演題と講演内容 |
|----------------|--|--|
| 図書館ゼミ 丸山 伸一 | 慶應義塾大学文学部卒 読売新聞社入社、横浜支局、社会部、社会部次長を経て現在論説委員兼編集委員 | 「マスコミの基礎講座 ～ジャーナリズムとメディアの責任～」 「第4の権力」とまで言われたメディアも、いまは「四面楚歌」の状況に置かれています。国家はさまざまな形でメディア規制をかけ始めており、市民のメディアに対する信頼度も低落傾向にあります。「表現の自由」の制約は、国民の知る権利の阻害にもつながり、民主社会は衰退します。そうした流れに待ったをかけるために、今、メディアとジャーナリズムには変容が求められています。現状と将来について、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。なお、皆さんにも即席のジャーナリスト気分を味わってもらう趣向を考えています。 |



No.87

通

平成18年11月20日
藤幸英



←図書館ゼミ

裏に講師の皆様のお集り
が写ります。

「自らの心へ漆物語」
↓



27回生卒業30周年記念 尚学塾特別講座 (その2)

今日の講座の特徴は、終了後に様々の交流があったことだ。

その1. 翌日、松本氏のブログ(blog... weblogの短縮形)の「目黒川の田舎に2」に、この記事を載せました。当日の雰囲気(おもしろい)を思い返すのに掲載いたします。

November 21, 2005

卒業30年後に後輩を前に教壇に立つ

高校卒業後満30年が過ぎました。5年前に、卒業25周年記念事業を行ったのが、ついこの間のこのように思い出されます。

30周年でも、記念事業を実施したいとの話があり、皆で話し合った結果、卒業後50年を経て、我々がどの様に思い、どんな仕事をして、日々を過ごしているのか、そのことは高校生の時分に考えていたこととどの様な関わりがあるのか、といった観点で、後輩に伝えたいという話が持ち上がりました。

母校の校長先生のご理解を得、たまたま現在の母校の一年生の担任が、我々の同期だということもあり、話がスムーズに進み、11月19日の土曜の午前午後、「先輩による後輩への特別講座」が開催されました。

午前中は、12名の現役職業人が、医療、歯科、法律家業務、服飾、キャリア形成、地震と建築物、漆器文化、農業実践、外資系製薬会社の営業戦略、国際報道体験、霞ヶ関の仕事といった演題で、1時間超の講座を同時並行で行いました。

相手は高校1年生です。中学を卒業したばかりの自分自身の子供のような生徒が相手です。自分たちのやっている仕事を、分かりやすく話をし、説明をするのに、皆緊張しながら汗をかいていました。

私自身も、12名の講師の一人として、冷や汗をかきかき、頑張りました。

12名の講師は、全体で300人以上の生徒を相手に話が出来ました。我が母校では、PTAや卒業生の支援もあり、毎月第1、第3、第5土曜日に、尚学塾と銘打ち、補習を行っています。その時間の合間に今回の企画を組み入れていただいたのです。学校御当局のご配慮に深く感謝申し上げます。

午後は、「図書館ゼミ」という生徒主催の企画があり、そこにはやはり我々同期のある全国紙現役論説委員のM君から、「ジャーナリズムとメディアの責任」という演題で、2時間余りの講座がありました。

この講座には、現役生徒諸君の他に我が同期も参加しました。50人くらいの壮年世代が一緒になって、現役で社説を書いているM君の、分かりやすい話に聞き入りました。

取材の基礎を紹介し、にもかかわらずメディアが繰り返す失態を松本サリン事件などの事例を挙げながら分かりやすく解説し、最近のメディアを巡る規制強化の動きに警鐘を鳴らす話に、一同時間の経つのも忘れて聞き入りました。

「学生時代は寝てばかりだったが、今回の講座は真剣に聴けた」との同期の声もありました。私も、M君の話の中で、新聞の朝刊締め切りは12版が21:30、13版が23:30、14版が午前1:30という区分があり、松本サリン事件の際には、松本の地元版(松本は12版が配られる地域)に載る記事が、12版ギリギリの警察発表という事情もあり、被疑者とされた人に配慮を欠く内容となってしまった、といった話には、思わず頷き、新聞社の記事作成上の制約を伺い知った点でも、大いに勉強になりました。

真実を追い求める社会部出身のM君の記者魂に触れる思いをし、改めて同期を尊敬したいと思う気分になりました。

講師役を担った同期の異口同音の感想は、大変しっかりとした学生が多かったということでした。若い学生諸君が、それぞれが今後の進路を思い浮かべて話を聞いてくれたならば有り難いと、皆で話しました。

公立高校も現在では学校5日制ではありますが、土曜日に先生方が補習をしている姿には打たれました。学校現場の先生は、本当に頑張っています。その情熱は必ずや結果がついてくるものと考えています。やはり、学力向上は学校の取り組み次第だと思えました。

試行錯誤はあるでしょうが、この様な形の学力向上運動というのは、一つの全国的なモデルになるように思えます。教頭先生の話では、最近の進学実績は大いに奮っているのだそうです。母校の意気軒昂な姿に接し、こちらも元気をもらいました。

母校の校歌の2番に、「時の流れは強うして この世の旅は長けれど 自治を命の若人は 強き力に生きるかな 山河秀でし此の郷に 礎固し我が母校」という歌詞があります。今回も校歌を歌いましたが、この歌詞の意味を十分に噛みしめることができた30周年事業でした。

November 21, 2005 in 地獄社会 | Permalink

| | |
|--------|----------------|
| 松本深志高校 | 2005 / 12 / 12 |
| 1 学年通信 | NO. 29 |

蒼溟の涯

◆11/19 尚学塾特別講座 講師の方からのメッセージ

去る11月19日に実施した、尚学塾特別講座の講師の方々に君達の感想を送ったところ、3人の方から林先生宛にお返事が届きました。君達に紹介してほしいとのことですので、掲載します。

小林 伸一様より (演題)「実社会におけるキャリア形成のポイント」

林さん松沢さん、市川さん 名フォロー本当にありがとうございました。
 本日19日の感想文をいただき、ありがとうございました。
 懇親会の折、担任の山田先生より『お前の話聞きたかったんだけど、所要があつてきなくて残念だった。』と言われて、照れくさい思いをいたしました。
 在校生の皆さんがどう感じられたか、チョッとどきどきで、明日の秩父への電車の中でこっそり読もうと思っておりましてところ、宅の女房がさっさと読み始めてしまい(声を出して読んでくれるもので)、照れくさい状況でした。
 それを隠す為、来年の6月に見に行こうとチケットを購入したジョルダノのオペラのDVDを見(聞き)てしまいました。
 おかげでビールとウイスキーの量が増えてしまいましたが。
 当方は皆さん15歳の一年生ということで、どうしたら出来るだけわかりやすい内容に、と思いながら話をさせていただきました。(話の構築はバラバラになりましたが)感想文を拝見して、小生がお伝えしたかった事、またその背景まで感じ取っていただいている生徒がいることを知り、深志これからもいけるぞと、確信を持ちました。
 東京にいることを生かすべく、在校生だけでなく、社会人になっている後輩にとってよき先輩となるべき支援が出来れば、と思った次第です。
 勿論、長谷川さん、観光協会の長野県の宣伝は協力致しますので、また連絡ください。
 ちよっとしたブームでしょうか、各県のアンテナショップは都心に花盛り状態(銀座の岩手県の小岩井農場の卵とか、日本橋の島根県の宍道湖のシジミなど特産品の紹介はメディアも含め盛んです)の様ですが、長野県ももっと宣伝してよいのではないのでしょうか?

新宿ディー・カツェ
小林伸一

手塚 英明様より (演題)「日本の心～漆物語～」

林直史様
 『30周年に集う会』お疲れ様でした。
 昨日は生徒の感想文をお送り頂きありがとうございました。
 飯沼先生まで書いて頂きありがたく思います。
 1年生と言えどもさすが深志の生徒、下手な講義にもかかわらず、『日本の心』をちゃんと受け止めていただけたようです。感想文の中には、私が話した以上の考えを書いていた生徒さんもあり、私のほうが勉強させられました。心と五感の重要性や漆が英語で『japan』と言われること、漆を乾かすのに湿度が必要なこと等、新たな発見をしていただき、全員が漆に興味を持っていただけたようです。なれないため、時間がだいぶ延長になってしまったにもかかわらず、熱心な感想を書いていただけました。申し訳なく思うと同

時に、本当にありがとうございました。担当していただいた福田先生にもよろしくお伝え下さい。
 尚、研ぎだしていただいたお椀ですが、その後の作業が少し遅れております。何とかがらばって冬休みになる前にはお届けしたいと思います。もうしばらくお待ち下さい。

実行委員の皆様・参加者の皆様へ
 実行委員の皆様には大変お世話様になり、ありがとうございました。そして、お疲れ様でした。このような貴重な経験をさせていただき、本当にありがたく思っております。その後バタバタしておりまして、御礼が遅くなり申し訳ございませんでした。
 皆様とゆっくりお話をしたかったのですが、都合により懇親会は出席できず申し訳ございませんでした。大変残念でした。
 北木曾路は2日続きの雪でした。周囲の山々はあつという間に銀世界となってしまいました。これから3月までは北木曾路は冬眠生活です。
 インフルエンザの流行も心配されます。どうぞご自愛下さい。

七代目ちきりや万右衛門 手塚英明

務台 俊介様より (演題)「国と地方の関係～地方分権改革の歴史と展望」

林直史様
 生徒の感想文頂きました。周到的な御配慮有り難うございます。正直なところ、高校一年生に興味を持って頂けない題材だったかなあと、ビクビクしていましたが、感想文を拝読して、ホッとしています。というか、氏名を明示して感想を書かせていることが一つと、深志の生徒が心優しい子供が多く、先輩を安心させてあげなくてはと、気を遣ってくれた結果かも知れませんね。最近疑り深くなっていますので(笑)。
 私の受講者諸君の感想アンケートは概ね以下のような内容でした。思わず何度も読み返しました。
 ・思っていたとおり難しいお話でしたが、思った以上に興味深い内容でした。
 ・(国と地方の財政問題に)私たちが直接関わっていくのは難しいけれど、知っておくことはとても大切だと思います。
 ・将来国家公務員のような仕事が出来ればと思いこの講座を選びました。お話を聞き、難しい問題だけでもどうやってよい方向にもっていくかを考えるのは私たち国民も一緒にやっつけていかなければならないことだと思いました。
 ・補助金を減らすのはよい考えですが、それを何で補うのか、国民にどのような影響が生じるのか、地方はどうやって歳入を増やすのか、難しい問題があります。
 ・『三位一体改革』は最近のニュースや新聞でよく言われているが、何のことかさっぱりと分からなかったが、様々な視点でいろんな意見・摩擦があることがよく分かった。
 ・国のお金や地方のお金について興味を持ち、問題を知り、解決する方法を国民の一人として考えていく必要があると思った。
 ・(国と地方の関係に関する)制度の仕組みの歴史やこれからの展望について勉強になった。
 ・難しい話で理解できない面もありましたが、将来中学校の教員になるのが夢なので、義務教育費の国庫負担に関する議論に特に興味がありました。
 ・欧州諸国が国民負担を高くすることで借金を抑えているのに対して、日本は少ない国民負担で借金が多いのが気になった。
 ・改めて知識がついた段階で、資料を読み返し、勉強してみたい。

いづれにしても、高校生と心が通ったような気がして、心に灯がともりました。

君達も将来、尚学塾特別講座の講師として、深志の教壇に立つ日が来ることでしょう。日々、自分を磨いて下さい。この学校が誇るような人物に、君達になるのです。

平成18年1月13日

藤本校

藤

No. 88

27回生特別講座 (403) (お祝い2)

11月26日に埼玉県立川越高校PTAによる本校視察がありました。先方がPTA役員や本校教員の同席をどう体験されましたか、休まず、その為には勤労命令もありません、私五味教頭が、お祝いにはしました。

今年は9月の校友会普通部会の発表をパワーポイントで行うことを決意し、作成はから、パワーポイントに選り、今日の視察での本校紹介もパワーポイントで行いました。

- 1. 創立、校舎、校是、生徒
- 2. 深志の一年
- 3. 学校環境
- 4. 学校経営の重点
- 5. 学校の変化
- 6. まとめ

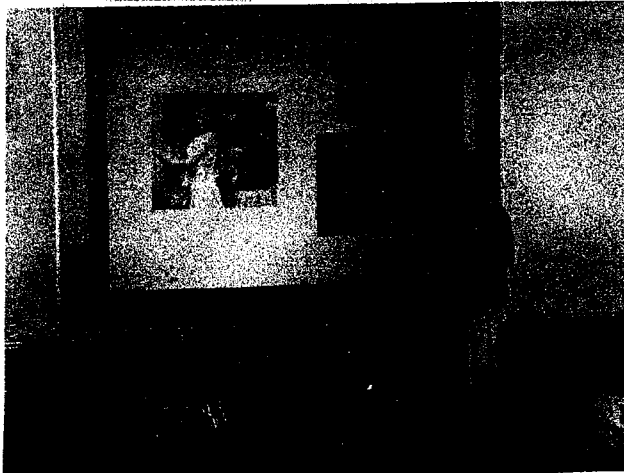
左の目次が40枚のスライドスライドに12分ほど約30分間...いや、もっと長かったかもしれない... (ヤバい) 校舎の案内、会議室を出ると、何と、その中に前の週の尚学塾で

「生徒生活でおしゃべりしたあなたに～生活を科学が楽しませ～」の題で、ご講演いただいた。

た、小柴朋子様がおられ、ご挨拶をいただいたのでした。X-IVには本当にびっくりしました。

小柴様のX-IVです。転載させていただきます。

小柴様の講座



後日譚@卒業30年後に後輩を前に教壇に立つ

11月19日の土曜に、卒業30年を記念して12名の現役職業人による「先輩による後輩への特別講座」を企画した話を過日このブログで紹介しましたが、2週間ほど経って、講習を受けた生徒からの嬉しい感想文が届きました。

特別講座担当の先生が、随分とご配慮下さり、届けて頂いたものです。私自身の講座に関して言えば、正直なところ、高校一年生が興味を持ちにくい題材だったかなあと、内心ビクビクしていましたが、感想文を拝読して、ホッとしています。と言うか、生徒の氏名を明示して感想を書かせていることが一つと、後輩に心優しい子供が多く、先輩を安心させてあげなくてはと、気を遣ってくれた結果かもしれません。最近疑り深くなっていますので(笑)。

私の受講者諸君の感想アンケートは概ね以下のような内容でした。二度三度と読み返しました。

(ここはNo.87で紹介した、生徒の感想が入ります。)

いずれにしても、息子の世代の高校生諸君と気持ちが通じたような気分になり、師走のブルーな心に灯がともりました。

私以外の講師諸氏にも感想文が届いたようで、同じように感動を呼び起こしたようです。

どういうわけか借越にも尚学塾に参加させていただくことになってしまい、今でも恐縮していますが、1年生の男の子の吸い込まれるような好奇心の目に囲まれ、教師冥利につける経験をしました。感想文が読み応えあって、私たちの頃と違って、良い子たちが多くなったのですね、きっと。本当に良い思い出になりました。この次は、今回講師に立候補し損ねた方たちに奮って参加していただいで、私も聴講させていただきたいと思ひます。だって、聞かせていただいた図書館ゼミの丸伸講演が、very good! でしたから。

実は、30周年の一週間後に深志を訪ねる機会がどういわけかあって、そこで藤本校長先生の学校紹介を聞かせていただきました。先生はパワーポイントを使われ、尚学塾のことも早速紹介していただいて、深志の昔から今を説明したお話でしたが、先生の人格が良く伝わってきて、これまた良いお話を聞かせていただきました。確かに私たちの頃に比べ、深志は清掃が行き届いて、きれいな学校になっていますよね。皆様の中にも、深志の現役のPTAの方がいらっしゃるでしょうが、どうぞ人を育てることに本当の力点を置いた今の名物校長先生と五味教頭先生と連携して、PTAとしてもう少し横の連絡を取り合って、自分の子と同様に他の子育てにも関心が持てるようになったらいいなあと思いました。

講師の皆様へ、今日の講座に向けた周到な準備をされ、緊張と裏切りの持ち、藤本校長先生の御挨拶です。

特に「生徒の感想!!」は、授業者にとり宝です。お宝!!

小柴様のX-IVにある「吸い込まれるような

好奇心の目に囲まれる

こと、「感想」で

教師は授業の場を

存心する。心にこそ

「教師冥利につける経験」

が大切です。良、授業を

創生は必ずしも源の別所。

No.87の「蒼溟の涯」No.29でご紹介の方の他にも感想を寄せられている方がいます。ご紹介はよろしく。

林様 白瀬好道様宛

生徒達の「感想文」を送っていただき、有り難うございました。お礼が遅くなって、本当に申し訳ありません。

報道の世界、とりわけテレビという、喋り専門の職業に就いてはいますが、講演とかトークとかは、実は苦手なもので、余程の事がないと引き受けません。今回は、日頃の不義理もあり(笑)、思いきって引き受けた次第です。

当日は、まず女生徒の多さに若干、驚きました。感想文を読んでも、文書力や構成力は、女子生徒の方がやや優るような印象を持ちました。

一番感じたのは、みな、真面目で従順だということです。全員が、肯定的なトーンで文章を書いています。もちろん、ポジティブな受け止め方をしてもらうのは、たいへん嬉しいのですが、反面、物足りなさも禁じえませんでした。

自分の高校生時代を振り返ると、マスコミはもとより、教師とか社会とか政治とか、およそ良識的な考え方を基礎にするものに対して、不信任や懐疑を抱き、絶えず、反抗的な心情を持って余っていたという記憶が強いのです。ですから、中には批判的な意見もあるやと密かに期待してたのですが、期待はどうか裏切られたようです。

もともと、教師に提出し、演者にも送付するのが想定されていた感想文ですから、穏やかな内容になるもの無理はありませんね。それだけ大人だという事でしょう。無い物ねだりだったかもしれません。

いずれにしても、将来のある人達に話をするのは、自分の至らない点を確認する意味でも貴重な機会でした。今後もあまり敬遠せず、機会があれば、再度、挑戦したいと思っています。

信州は、寒いでしょうね。林さんも、風邪など召されないように、ご自愛ください。お手数をおかけして、申し訳ありませんでした。生徒の皆さんにも、よろしくお伝えください。

このところ、とても寒くなりました。東京も今日は雪が舞ったようですね。

今日、息子が学校から、1学年の学年通信を持って帰りました(持って帰って置いてありました)。ふと目をやると、尚学塾特別講座の講師からのメッセージということで、MLに寄せられたメールの文章が載っていました。林先生が各講師の方々に郵送して下さった生徒さんたちの感想に対する、講師の方々の心温まる言葉です。

この学年通信の最後に、「君達も将来、尚学塾特別講座の講師として、深志の教壇に立つ日がくることでしょう。日々、自分を磨いてください。この学校が誇るような人物に、君達になるのです」。

とありました。先生方もとても熱心にやってくださったこと、卒業生のこうした行いについて大切に受け留めてくださっていることにあらためて感謝したいと思います。こうしたことを通して、私たちも後輩から元気をもらったんだと思います。同窓会の年次会活動で、後輩達と何かしらの心の行き来ができたということは、意義のあることではないかと思います。これも、同期一人一人の協力があってこそだと思います。

当日撮ったビデオのラッシュを、太田さんから借りて見させてもらっていますが、それぞれの教室で、皆さんそれぞれがその人らしく話をされている様子が写っています。おじさん、おばさん、かっこいいですよ。どのようになるかわかりませんが、冊子の編集の方、頑張りしたいと思います。

松澤敬子

今日の記念講演ができたのは、一年以上前から構想を練り、松本在住の皆様が中心となり、学校と連絡をとり、時間をかけて、具体的な計画をたてたからでした。小塚様へのメールに次のように記しました。

皆さん、忙しい年の瀬でいらっやいますよね！11月の卒業30周年の会では、皆さんに大変お世話になりました。あれこれと、忙しさに取り紛れ、もう1ヶ月もたってしまいました。思い出すたびに、本当に良い記念の会であったと思います。参加された方も、今回参加できなかった方も含めて、このような同窓会ができていくことに対して、心から感謝申し上げます。はじめは曇るかむような話だった計画を形に仕上げてくださった、務台氏をはじめとした、まさに実行力の固まりのような実行委員の松本在住の皆様に対して、改めて本当に敬意を表します。

27日生の皆様にも、本当に良い記念の会であったこと伺いました。在校生と交流する機会を通じて、お互いに交流が深まり、友情がさらに絆が深まったのではないかと感じました。記念の会を企画し、運営に当たった役員の皆様、それに伴ってサポートした27日生の皆様にも感謝と敬意を申し上げます。